

## 新しい系統豚「アイリスW3」の生産能力と飼養管理方法

畜産総合センター なかたともこ 中田智子

【はじめに】 平成 28 年度に農業総合試験場にて本県が造成した 3 代目の大ヨークシャー種系統豚「アイリスW3」は、平成 28 年 10 月に当所に移管され、平成 29 年 3 月末から分娩を開始した。

平成 29 年 10 月から県内生産者への供給を開始したが、先代のアイリスW2 より能力等が改良されているため、飼養管理上の留意点が異なる可能性がある。そこで、当所で飼養したアイリスW3 の繁殖成績と生殖器形状の特徴をアイリスW2 と比較し、飼養管理上の際に特に注意すべき点を確認した。

### 【方法】

8～9 か月齢の未経産豚を、平成 28 年 12 月から平成 29 年 4 月までに人工授精により交配した。生産された子豚は、分娩日に生時体重を測定し、鉄剤の投与および犬歯切除を行った。産子数および母豚の泌乳状況により、里子編入及び代用乳の給餌を実施し、21 日齢で体重測定後、離乳した。5 か月齢以降に目視により体型審査を行い、損徴の有無を確認した。

母豚及び子豚の飼料給餌及びワクチン投与は当所の慣行法に従い実施し、飼料摂取量及び体型に合わせて給餌量及び内容を変更する等、個体の状況に応じて飼養管理を調整した。

繁殖成績は Student-t 検定、生殖器形状はカイ二乗検定により比較した。

### 【結果】

4 月から 9 月までに分娩したアイリスW3 の初産の平均総産子数(11.1±2.6 頭)は、アイリスW2 と比較して有意差を認めなかったものの、0.8 頭増加した。

生殖器形状の損徴として外陰部面積が小さいと判定した個体の割合 (8.6%) は、アイリスW2 (34.9%) より有意に減少した。

表 繁殖能力<sup>※1</sup>

	アイリスW3 初産	アイリスW2 <sup>※2</sup> 初産	アイリスW2 経産
総産子数(頭)	11.1±2.6	10.3±3.0	12.1±3.0
発情再帰日数 <sup>※3</sup> (日)	5.9±1.9	5.4±0.5	5.0±0.6

<sup>※1</sup> 全ての項目について、4月～9月に分娩した個体を集計し、平均±標準偏差を示した。

<sup>※2</sup> H24以降に生産された母豚のうち、H27及びH28年度に分娩した個体を集計した。

<sup>※3</sup> 分娩後21日以降に離乳し、離乳後10日以内に不動反応を示した個体を集計した。

飼養結果については、一部肥満傾向の個体において難産や分娩後の乳量減少を確認した。乳量減少については代用乳給餌等により対応したが、授乳中の母豚の飼料摂取量が低下したこと等から、離乳後の発情再帰が遅延した。

そこで、適正な体型を維持するよう母豚の栄養管理を行ったところ、2産目以降難産は発生せず、乳量も回復した。発情再帰日数も、アイリスW2と同等の概ね離乳後5日後程度となった。なお、栄養管理においては、新たな飼料添加物等の投与や全体的な増飼等は行わず、配合飼料のみを給餌し、個体に合わせて量を調整した。

#### 【考察】

当所におけるアイリスW3の繁殖成績は、農業総合試験場と同様にアイリスW2よりも優れていた。また、外陰部面積の拡大により、外陰部形状の変化による発情期の判断や自然交配を行いやすくなると考えられた。

産子数が増加したことなどから母豚の周産期管理に一層留意する必要があるが、当所では基本的な飼養管理を徹底することで十分対応することができた。

これらの結果から、一般の生産農場においても、種豚をアイリスW2からアイリスW3に更新することで、飼養管理を大きく変えることなく生産頭数を増加できると考えられた。